

昭和51年10月24日

大町回史跡めぐり

茨城県取手方面

乙 乙 10月24日 月 午前9時15分

南越谷駅集合

1-1 又

南越谷へ新松戸乗替へ取手下車

染谷家本陣へ長禅寺へ東電乗り

稲戸井下車へ三仏堂へ折戻へ

越谷

合費 八百円（交通費他）

取手付近の史蹟

日置宗一

茨城県相馬郡取手の地名の起りは、大鹿城の砦
のあつた左とニから生じたものかと伝えられる
大鹿城は現在の茨宮競輪場がその跡である。
大鹿城軍将門の弟将頼の後胤と称する。織部時
平が承久の乱後構築したといふ。その後大
鹿氏（五五八―六九）右衛門尉を称して戦国時代に至つた。か永
禄年間小文圃の一色宮内政良に滅ぼされた。左の
ち相馬氏の一族で娘婿である高井直徳（其の）の手に
渡つたが相馬氏滅亡と共に廃城となつた。

寛永身中より寛文の頃竹塚田備中守の領地と

して取出と記し寛文十年より取手と改めり

酒井河内守二水に代り天領を経て榎本領に属

す

取手本陣 (沈木野家)

江戸時代の建築物で本陣としてその建物が現

存してゐるのは茨城県でも稀水で庭内には石

公の歌碑もあり青昭公が宿泊の折感懐を歌に

託して筆をとりたものや二水を石に刻み江戸

屋敷から届けられたと伝えられさして行棹

みとりてみ渡し舟云々の碑も建立してありそ
の摩訶筆な書体は国家的のもので同家の内外不
出の品とさされてゐる。越谷市大相摸不動にあり
る本尊の不動明王の木彫は奈良二月堂のそれ
の同本雙体の一體は二の染谷家の出身といわ
れる良年の作である。それを証する古碑に染谷
の文字が刻まれてゐる。これは五孝へると越谷
界隈も古くは染谷氏の所領で将門とあり存か
りもあつたやうに思われる。

大原山長禪寺

寺一遷起一によると人皇六十一代朱雀院の御宇承

平元年平親王将門相馬小次郎の創建するると二

乃有り二水正勅願所となし地蔵を本尊と存す

之内には仏師安阿彌の作として守本尊十一面

觀音菩薩を安置するも年一度四月十八日のみ

南座するりみ今は和仏とさ水てゝる

三仏堂 釋有形文化財

天台宗米野井山竜禪寺境内にあり九三五延長三年位

宗人阿闍の關山にして承平七年平将門二水を

堂より修復しさらに建久三年千葉常胤堂宇に修

理を施す。後に徳川家康から甘石を受け修理料
とする。尚本尊は運慶作と伝えられ水滸玉現在
未來の無上尊と象徴せる阿彌陀釈迦彌勒の一
本三体の靈像を安置してある事から三仏堂と
稱してゐる。

桔梗塚

平将門の愛妾桔梗御前の墓といふ。承平元年平

貞盛は都にありて左馬允の任にあつたが常陸

大掾たる父国香が将門に殺されたと聞き同様に

婦に叔父良兼に従ひ将門を常陸に攻め去り破

水て京朝の遠つた。當時十郎押頼使藤原秀郷
 粉かに思ふと二つあつて将内ふ秘計付受手格
 使の切が多。いものちと根業し虚に此処は
 て殺害したといふ。村人二の事を哀み塚を築い
 て遺骸を埋め小碑を建てたと伝えらる。

資料

東京史学会会報

小崎謙

平将門

三省堂

(日置宗一記)